

【目次】

1.アーカイブ No.37

連載「日本労働会館物語」第34回

＜いま惟一館(友愛会館)が注目される5つの理由＞

2.01/06(火) 団体見学・連合有志の会 6名

3.01/07(水)～08(木) 出張講演・沖縄電労 友愛運動歴史学習会 13名

4.01/13(火) 団体見学・マルハニチロユニオン 8名

5.01/24(土) 団体見学・UA ゼンセン NCCU 19名

6.01/27(火)～29(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・

DU 第3期「枝垂桜」② 6名

7.01/29(木) 団体見学・UA ゼンセン流通部門・惟一塾(塾長・逢見直人) 15名

過去に連載「日本労働会館物語」を掲載していました。メールレポート「友愛労働歴史館たより」第 184 号よりアーカイブから、可能なものを抜粋し、再掲載していきます。

1. アーカイブ No.37

連載「日本労働会館物語」第34回 2012.01.27 発行の第45号に掲載

＜いま惟一館(友愛会館)が注目される5つの理由＞

今年には日本労働運動の源流とされる友愛会創立から 100 年。下記に示す様々な 100 周年記念事業が予定されていますが、最大のプロジェクトは友愛会館の建設で本 27 日が竣工式でした。

これを契機に本連載もいよいよ友愛会について記述したいと思いますが、その前に惟一館(後の日本労働会館、現友愛会館)について今一度、整理しておきます。惟一館は米国ユニテリアン協会が明治 27(1894)年 3 月、自由基督教の活動拠点として建設したものの、このキリスト教プロテスタントの一小宗派であるユニテリアンが、そして惟一館が注目される理由は以下の通りです。

- ① 招聘者が福澤諭吉や明治政府の関係者であり、ユニテリアンは明治期に来日した正統派基督教とは異なり、押し掛けてきたのではなく、招かれてきた人々だということ。
- ② ユニテリアンはキリスト教以外の諸宗教に寛容な開かれた人々であり、日本にリベラリズムを持ち込んだとされ、福澤諭吉の「修身要領」にも大きな影響を与えたとされていること。
- ③ 惟一館の設計者が日本近代建築の父とされる J・コンドルだということ。因みに彼は惟一館と同じ明治 27 年に三菱一号館(現在の三菱一号館美術館)と神田青年館を建設しています。

- ④ 惟一館で明治 31(1898)年 10 月、安部磯雄らにより社会主義研究会が結成され、これが後に社会民主党となったことにより、この地が「日本社会主義運動発祥の地」とも呼ばれたこと。
- ⑤ 惟一館で大正元(1912)年 8 月、鈴木文治らにより友愛会が創立され、後に総同盟、同盟、連合へと発展してきたことにより、この地が「日本労働運動発祥之地」とされたこと。

<主な友愛会創立 100 周年事業>

- ① 新友愛会館・新三田会館の建設(竣工式)
と き:2012 年 1 月 27 日(金)10:00~11:30
ところ:友愛会館(東京都港区芝 2-20-12)
- ② 「友愛会創立 100 周年モニュメント」の制作(除幕式)
と き:2012 年 1 月 27 日(金)11:00~11:15
ところ:モニュメント「暁—ぎょう—」
- ③ 友愛労働歴史館のオープン(開館式)
と き:2012 年 8 月 1 日(水)16:00~17:30
ところ:友愛会館 8 階・友愛労働歴史館
- ④ 「友愛会創立 100 周年宣言」の策定(発表)
と き:2012 年 8 月 1 日(水)14:00~16:00
ところ:友愛会創立記念式典
- ⑤ 友愛会創立 100 周年記念講演会の開催
と き:2012 年 8 月 1 日(水)14:00~16:00
ところ:友愛会館 9 階 大会議室
- ⑥ 友愛会創立を顕彰する記念パーティーの開催
と き:2012 年 8 月 1 日(水)18:00~20:00
ところ:東京プリンスホテル

2. 01/06(火) 団体見学・連合有志の会 6 名

常設展示「日本労働運動の 100 年余」の解説・講義。期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の 100 年余の解説を聴く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学びました。

3. 01/07(水)~08(木) 出張講演・沖縄電労 友愛運動歴史学習会 13名

常設展示「日本労働運動の100年余」のを中心に戦前・戦後の労働運動の詳細。政党政治の戦前戦後の歴史。特に政治面では戦後の社会党と民社党との関係、今なぜ国民民主党なのか。運動面では、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説詳細を説く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学んだ。特に今回は2時間余りの講演において、詳細を説明した上、懇親会の中でも1時間余り参加者からの大変熱心な質問がありました。

4. 01/13(火) 団体見学・マルハニチロユニオン 8名

フード連合の有志8人が見学・研修で来館。『友愛会から連合へ～日本労働運動の100年』DVDを鑑賞の後、安部館員の解説を聞きながら館内の見学、資料閲覧、意見交換を行った。特に野田醤油争議など戦前の労働運動に関して、活発な質疑が交わされた。

5. 1/24(土) 団体見学・UA ゼンセン・NCCU ニチイ分会・新任役員実務研修会 19名

友愛労働歴史館の生い立ちとこの地の重要性。歴史館の展示物の概略を説明した。「日本労働運動100年余」を期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説を40分受講し、特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治と松岡駒吉のメッセージの重要性を学びました。各自歴史の重みと政治と労働組合の関係性に感心した様子でした。

6. 01/27(火)~29(木) 出張講演・UA ゼンセン流通部門・ダイエーユニオン 第3期「枝垂桜」② 6名

ダイエーユニオンの伝承塾「枝垂桜」の4回シリーズの第二回目。開催趣旨は、労働組合の組織の強化を目的に、運動家としての人間性を高め、労働運

動の精神を正しく継承できるリーダーを育成するためです。年間、二泊三日を4回にわたり、17講義、15演習、9視察から学びます。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ。」あるいは、「歴史は未来の鏡である。」という様に、①日本労働運動の100年余の歴史 ②日本の労働運動から見た流通労働運動の歴史 ③労働組合が政治・選挙に取り組む理由と公職選挙法の基礎知識 ④民社の考え ⑤民社党の歴史・百折不撓 ⑥生産性運動三原則とその変遷⑦労働組合からのコーポレートガバナンス(企業統治)などを具体的に考える演習を挟み、受講しました。

各講義の中では、質問も活発で、また日ごろの労働組合活動での疑問など幅広く探求した様子でした。

7. .01/29(木) 団体見学・UA ゼンセン流通部門・惟一塾(塾長・逢見直人) 15名

常設展示「日本労働運動の100年余」のを中心に戦前・戦後の労働運動の詳細。政党政治の戦前戦後の歴史。特に政治面では戦後の社会党と民社党との関係、なぜ国民民主党なのか。運動面では、期成会の結成と解散、ユニテリアンの来日から友愛会の創立、戦前戦後の運動の歴史、総同盟・同盟、連合への発展など日本労働運動の100年余の解説詳細を聴く。特に同盟運動の歴史を中心に学び、友愛会、同盟の基本理念や「自由にして民主的な運動」「政治の必要性と今後の方向性」「反自民・非共産の考え方」などを学習し、鈴木文治(人間性と職業能力の向上)と松岡駒吉(産業人論と健全なる労働組合主義)のメッセージの重要性を学んだ。

-----**「人間の尊厳、進歩と発達のために」**-----

発行:友愛労働歴史館

責任者:藤吉大輔

〒105-0014 港区芝 2-20-12

友愛会館 8F

TEL03-3453-5386

Eメール yuairodorekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuairodorekishikan.com>

-----**惟一館から131年、友愛から113年**-----